

平成21年度武蔵野市立第一中学校 学校評価報告書

校長 大町 洋

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学習指導	基礎・基本の定着	授業において1単位時間の目標と評価を明確にするように努力した。数・英の少人数授業、学年選択授業の開設や学習支援教室の時間増により、基礎・基本が定着してきた。学習成果が低迷している生徒に対する、個別指導が課題である。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の重要性を全教員が共通理解し、基本的態様について一中の授業スタイルを継続する。</li> <li>英・数は、少人数授業でのメリットを生かすとともに、学年選択授業の設定によりきめ細かな指導を徹底する。</li> <li>学習支援教室の活用を抜本的に見直し、学力に課題のある生徒への対応を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テスト勉強の仕方などをアドバイスすることも重要である。</li> <li>評価に関しては、基準の説明が重要である。</li> <li>道徳は、保護者や地域の大人を巻き込むことが大切である。</li> <li>体験や実践を伴う道徳教材も必要である</li> <li>子供の想像力を育てる必要がある。読書なども効果的だと考える。</li> <li>道徳は、学校・家庭・社会が連携し合っていくとよい。</li> </ul>
	道徳の時間の充実と研究推進	年間指導計画に基づいた道徳の授業時間を確保した。また、市の研究奨励校として、道徳的实践力を付ける研究を道徳の時間のみならず、全教育活動に広げ実践を始めた。今後、より一層の研究を重ね検証する必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳の授業を改善するとともに、生徒の興味・関心を高める教材の活用と工夫を推進する。</li> <li>全教育活動において、道徳的視点に立った教育活動を継続する。</li> <li>研究計画に基づいた研究実践を重ねる。</li> </ul>	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○1単位時間の目標を明確にし、基礎・基本の定着を図る。また、学習成果が低迷している生徒への学習アドバイスを丁寧に行い、学習支援教室の有効的な活用を図る。</p> <p>○道徳の時間の充実を図るとともに、教科・領域においても道徳的視点に立ち、道徳的实践力を高める指導を推進する。また、学校・家庭・地域が密接に連携し合い、道徳教育をより一層効果的なものにする。</p>					
生活指導・進路指導	基本的な生活習慣の確立	前年度に続き、挨拶指導に重点を置いた。また、身だしなみや校内生活、生活環境に関しても積極的な指導に取り組んだ。アンケート結果は、肯定的な評価が前年度をやや上回った。しかし、学年により認識の差がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる場面で、生徒が自然に挨拶できるまで指導を継続する。</li> <li>指導基準を明確にし、保護者の協力を得ながら指導を徹底する。</li> <li>生徒会や委員会による生徒の自主的活動を活性化、自治力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一中フェスタ、行事などでは、挨拶ができています。</li> <li>学校外での挨拶が不十分なのは、今の社会が見知らぬ人に声をかけるなど言われ、仕方ないかも知れない。</li> <li>薬物や万引きなどやってはいけないことを言い続けることが大切である。</li> <li>進路指導は、進学だけではないことを明確化にすべきである。</li> </ul>
	いじめを許さない学校づくり	学期1回のいじめ調査を行い、必要に応じて個別の教育相談を実施した。またカウンセラーとも連携を図った。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ調査の継続と個別相談の活用。</li> <li>カウンセラー、関係機関との連携強化。</li> </ul>	
	3年間を見通した進路学習	各学年、発達段階に応じた進路指導を実施した。2年生では、職場体験に取り組んだ。より一層、体験活動を充実させる必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した指導計画を立て、実践する。特に1年生の導入段階では、丁寧に指導を行う。</li> <li>各学年、体験活動を推進する。</li> </ul>	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <p>○組織的な指導体制を確立し、指導基準を明確にした上で学校・家庭と連携して指導の徹底を図る。また、生徒会や委員会を活性化させ、生徒自らが改善を図る自治力を高める。</p> <p>○生徒の発達段階に応じた進路指導計画を立て、外部機関を活用した体験活動をより一層推進し、各学年の指導内容を充実させる。また、学年便りや進路便りなどを通じてその指導内容を保護者にも伝え、学校・家庭が連携して進路指導を行う。</p>					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	改善策・対応策	学校関係者評価における意見
地域連携	開かれた学校づくりの推進	学校公開を年4回土曜日に開催し、保護者、地域の方々の学校に対する理解を深めることができた。	A	・今後も、今年度同様に学校公開日を開催するとともに、公開の内容を精選する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミセンと連携ができています。</li> <li>・小学生の授業体験がとてよかった。</li> <li>・小中教員の連携がよく取れている。</li> <li>・フェスタ実行委員の生徒は、地域との連携が取れている。その他の生徒と地域との連携が重要である。</li> <li>・目に見える地域との触れ合いと、見えない触れ合いがある。ハートカードの取組がよい。</li> </ul>
	小中連携の推進	教員対象の小中連絡協議会を2回開催し、お互いの理解を深めた。また小学生対象の体験授業、体験部活動の実施、保護者対象の授業公開を5日間実施した。児童・保護者の中学への興味・関心を高めることができた。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連絡協議会を定期的を開催することを継続すると共に、情報の共有化をより一層推進する。</li> <li>・小学生対象の体験授業、体験部活動をより充実する。</li> </ul>	
	地域とともに発展する学校	一中フェスタが、生徒実行委員と地域の方々と連携して行われた。また、地域の方々と交流方法について改善した。PTAとの連携をより一層深める必要がある。	B	・一中フェスタへの取組を(学校側)を再構築し、全生徒が自覚を持って取組む工夫をより一層推進する。	
	地域の教育力の活用	前年度に続き今年度は、書写、社会、理科、進路、総合的な学習の時間で地域の方や諸機関の方々を授業で活用した。より一層、活用を拡大する。	B	・保護者・地域に人材情報を求め、活用拡大を図る。	
	<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度と同様に学校公開を実施することで、保護者・地域の方々の理解と協力を深め、指導改善を推進する。</li> <li>○小中連携は、学校間だけでなく地域の諸機関とも連携を図りながら、積極的に推進する。</li> <li>○一中フェスタを通して、学校・保護者・地域との連携を深めるとともに生徒の実践力を高める。</li> </ul>				
学校運営	学校評価と開かれた学校づくり協議会との連携	協議会を年4回開催し、各分掌主任の参加で学校理解を深めることができた。また、適正な学校評価実施に向け、協議会委員の方に学校公開や行事など、多数の参観を実施してもらった。また、協議会で学校関係者評価を実施した。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の開催を年4回とし、協議会との情報交換を深め、連携をより一層充実する。</li> <li>・行事だけでなく授業参観等の機会を増やし評価材料の提供を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の一生懸命取り組んでいる姿がよかった。</li> <li>・できるだけ多くの大人と関わるとよい。</li> <li>・生徒の評価で、一中は活気があると答える生徒が多いことはよいことである。</li> </ul>
	学校情報の充実	学校ホームページを全面改定し、内容を充実させ見やすくした。また、更新回数を増やし、その日の出来事を更新するなど、タイムリーな情報提供に努めた。そのため、アクセス数も増加した。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの内容を工夫し、情報発信の中心に位置付ける。</li> <li>・各種のたより(学校、学年、分掌等)の内容を充実させる。</li> </ul>	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○開かれた学校づくり協議会委員が、学校訪問の機会を増やせるように情報提供を行うことで連携を深める。また、学校評価を実施することで、学校改善を推進する。</li> <li>○インターネット、文書など有効的な媒体を活用して、タイムリーな学校情報の提供と家庭・地域が連携して行う生徒の育成を推進する。</li> </ul>					